

原発ゼロ後の世界を探り歩く

弁護士が監督した映画 あすから渋谷で

脱原発後の未来を探るドキュメンタリー映画「日本と再生 光と風のギガワット作戦」が完成した。25日から都内で公開される。監督は、20年にわたって原発の危険を訴え、全国の原発差し止め訴訟の先頭に立つ都内在住の弁護士、河合弘之さん(72)だ。世界は自然エネルギーの潮流にあり、「自然エネルギーはもうかる」という経済界へのメッセージが込められている。

映画は、脱原発を目指す 也さん(58)と歩いた世界の河合さんが「原発ゼロを実現しても自然エネルギーで地域も経済も再生できる」と信じ、環境学者の飯田哲国、アイスランド、南アフリカなどに足を運び、日本でも自然エネルギーに取り組む人々を約30カ所を訪ねた。旅する中で、さまざまな



完成披露試写会後の記者会見で、「映画を見て、自然エネルギーで発展していける未来が待っていると確信した」と語る小泉純一郎・元首相(右)と、監督の河合弘之弁護士(16日、渋谷区)



「日本と再生」の一場面。風力発電の現場を歩く河合弘之弁護士ら。自然エネルギーの表情を知るために地球を2周したという(11) © Kプロジェクト

経済界へ「自然エネルギー もうかる」

人に取材、「自然エネルギーは天気まかせで不安定」「自然エネルギーは高くつく」「ドイツの脱原発、自然エネルギー推進はフランスから原発電気を買っているからインチキ」などの言説について、実証的に論破する内容になっている。

河合さんは、2014年と15年に「日本と原発 私たちは原発で幸せですか?」「日本と原発 4年後」と2本の映画を制作、日本の原発の問題点を描いた。これらは約1800回自主上映され、約10万人が見たという。多くの観客から「原発はやめなくてはならないのはわかったが、電気はどうすればいいのか」と問われたことが、この映画を作るきっかけになった。

1、2作は6700万円にのぼる制作・宣伝費に自腹を切ったが、今回は寄付で約7千万円の制作費を賄うことができた。もともとは「原発なんて言わない方がいい」と言っていた知人の中小企業の社長ら十数人が原発の問題点を描いた

前作を見て賛同し、協力したという。世界を旅した河合さんは「僕も2年間、あちこち旅をして学び、成長した。映画を通して、多くの人に自然エネルギーに向かっていることを知ってほしい」と話す。同時に「特に経済界には自然エネルギーはもうかるということを知ってほしい。自然エネルギーはすでに世界を動かしている。このままでは日本は乗り遅れてしまう」と訴えている。

映画にも出演した小泉純一郎元首相(76)は「自然エネルギーでやっていると説得力のある映画だ。原発ゼロ運動をしてよかったですと思わせる内容。多くの人に見てほしい」と話した。

「日本と再生」は100分。上映は25日から渋谷のユースペースで。劇場公開後は自主上映会も進めたいという。自主上映の問い合わせはKプロジェクト(03・5511・4427)。(編集委員・大久保真紀)

◆「江戸城今昔」シリーズはこれで終わります。

(建築家・画家 木下栄三)

権活動に取り組んだ。20 (神)の一つであるフクロ



●飛騨の地酒 具の飛騨地域観光物産展が23日、新王モールの新宿で始まった



れっつ朝カル 新宿教室の一押し講座

ひざ痛を自分で治す